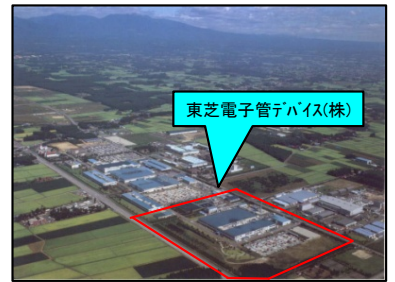




東芝電子管デバイス株式会社 サイトレポート情報	
所在地	〒324-8550 栃木県大田原市下石上1385番地
敷地面積	93,000m <sup>2</sup> 、建家面積：17,176m <sup>2</sup> 、緑化率27%
設立	2003年10月、従業員：440人（2011年3月現在）
主要製品	X線管、X線イメージングデバイス、電力管
ISO14001認証取得	1996年3月、最新更新年月：2009年5月 (ISO認証番号：EC06J0070)



## ごあいさつ

東芝電子管デバイス株式会社は、人々の安全で健康な暮らしに貢献できるよう、医療診断・治療、食品等検査、航空管制、原子力発電や大型加速器の研究分野などで活躍するシステムのキーコンポーネントを創造し、提供していきます。また、より良い地球環境の実現に向け、「省資源・省エネ・リサイクル」に配慮したモノづくり、地球環境を強く意識した商品開発を行っていきます。



環境保全責任者 柳川隆

## 2010年度の環境の主な取組み

- ☆化学物質排出量の削減  
化学物質の排出量を、2000年度と比べて、53%削減（目標 50%削減）。
- ☆CO<sub>2</sub>排出量の削減  
CO<sub>2</sub>（エネルギー）の生産高原単位を、1990年度と比べて、39%削減（目標 37%削減）。
- ☆廃棄物ゼロエミッションの継続  
廃棄物総発生量原単位を、2000年度と比べて、28%削減（目標 28%削減）。最終処分率は0.2%。
- ☆環境調和型製品の開発  
環境調和型製品の認定件数60件
- ☆資材取引先に関する環境配慮  
取引先に指導・支援実施。
- ☆全員参加・啓発活動の展開、地域との協調  
環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、朝礼資料配布等実施。  
地域への各種環境行事の参加、清掃ボランティア活動の参加等実施。

## 製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

- ・製品によるCO<sub>2</sub>削減量（LCA評価）：134t/年（目標 112t/年）
- ・ECP製品（環境調和型製品）の売上高比率：77%（目標 67%）
- ・製品の環境効率の向上による環境調和型製品の開発：製品の環境効率平均：1.15（目標 1.15）（1990年当時の製品を基準として評価した）



【X線フラットパネルディテクタ】



【マルチビームクライストロン】



【オイルフリーX線管(工業用)】



【オイルフリーX線管(CT用)】

## 環境コミュニケーションの紹介

- ・環境報告書の発行：2001年度より毎年発行
- ・地域との交流（参加）：工業団地一斉ごみ拾い参加、小学校見学受け入れ
- ・自治体等主催行事参画：大田原市環境フォーラムへの参画
- ・東芝グループ環境展への出展



**東芝電子管デバイス株式会社  
環境方針**

2011.4.1

那須野が原の恵まれた自然環境のもとに設立された、東芝電子管デバイス株式会社は、電子管・デバイス事業を担い、その事業活動・製品・サービスを通じて地球環境に配慮した取り組みを、全員で推進します。

「“かけがえのない地球”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで持続可能な社会へ貢献します。

- (1) 環境への取り組みを、経営の最重要課題の一つとして位置付け、経済と調和させた環境活動を推進します。  
また、事業活動、製品・サービスに関わる重要な、環境側面に関する環境目的・環境目標の設定及び定期的な見直しを行い、環境マネジメントシステムと、その環境パフォーマンスの継続的改善及び汚染の予防に、関係する全拠点・全階層で取り組みます。
- (2) 環境保全に関する法規則・公害防止協定などを遵守することを最低限の責務とする立場に立ち、生物多様性を含む環境への影響を配慮し、より厳しい自主基準を設け管理します。
- (3) 私たちは下記の項目を重点的な取り組みとし、製品・事業プロセスの両面から環境負荷の軽減を図ります。
  - a) 事業活動による環境負荷の低減
    - ① 地球温暖化防止のためCO<sub>2</sub>排出量を削減します。
    - ② 規制化学物質排出量を削減します。
    - ③ 廃棄物総排出量を削減します。
    - ④ 大気汚染、土壌汚染、水質汚濁を防止します。
  - b) 環境調和型製品の提供  
私たちの製品は様々なシステムに使用されるキーデバイスです。  
地球資源の有限性を認識し、その有効な利用及び活用を促進するため、製品のみならずシステムまで含めたライフサイクルを通じ環境負荷の低減を目指します。  
具体的には、製品およびシステムの使用段階でのエネルギー効率向上を図り、また製品に使用する希少金属の低減等の3Rを考慮し、有害物質を削減した環境調和型製品を世の中に提供します。
  - c) 取引先の指導支援  
取引先などに対して環境負荷低減の指導、支援を行います。
- (4) 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
- (5) お客様、取引先、地域社会、従業員等全てのステークホルダーとの相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションの深耕を図ります。



▲本社の位置する田園地帯



▲大田原市指定天然記念物「ザゼン草」の群生地

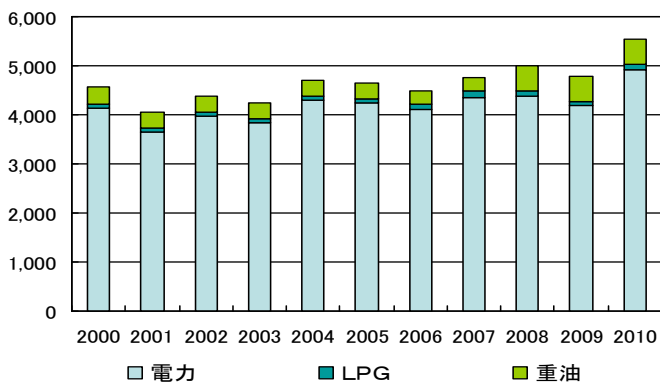
**東芝電子管デバイス株式会社**

環境保全責任者

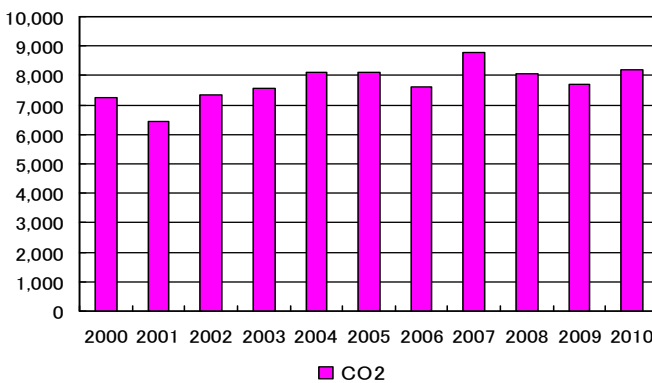
柳川 隆

環境負荷データ

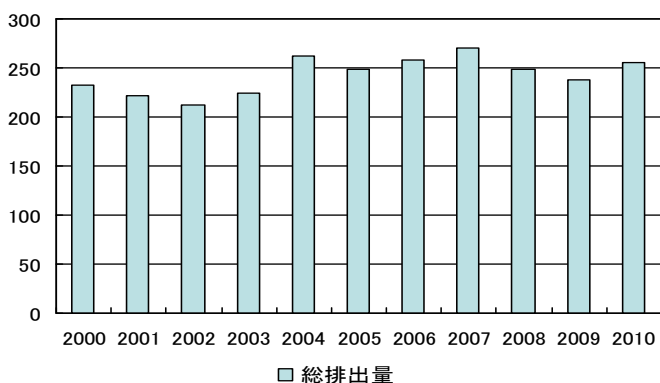
エネルギー使用量(単位:KL)



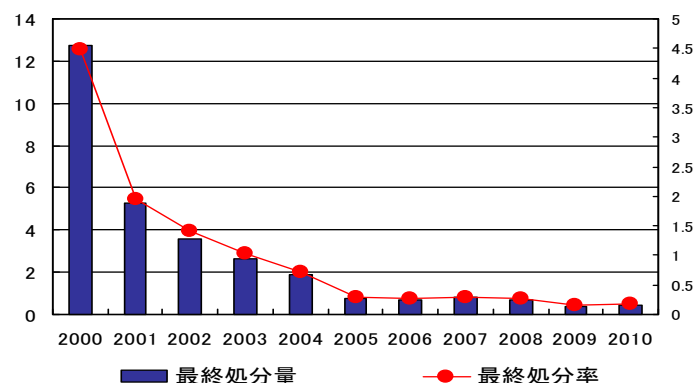
CO<sub>2</sub>排出量(単位:トン-CO<sub>2</sub>)



廃棄物総発生量(単位:トン)

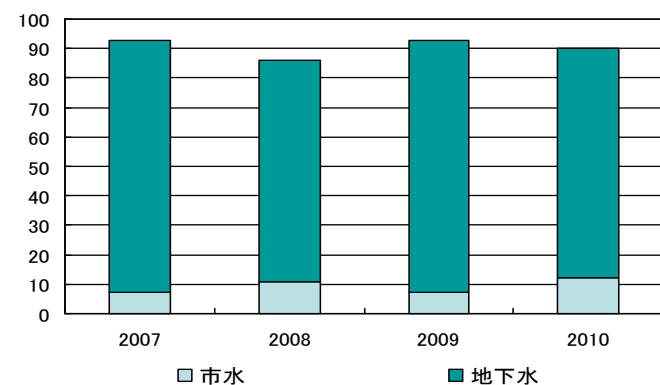


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

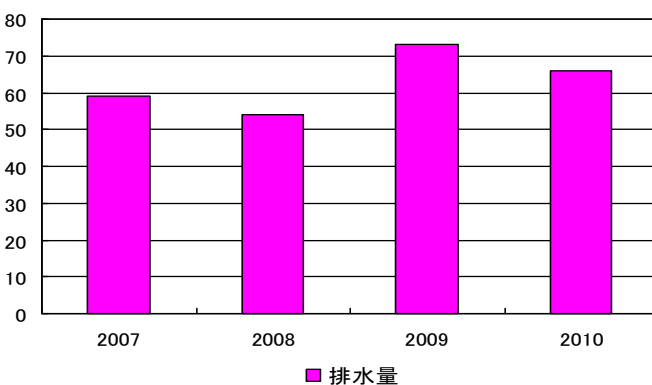


主な廃物名: 酸、汚泥、金属、ガラス、プラスチック、油等

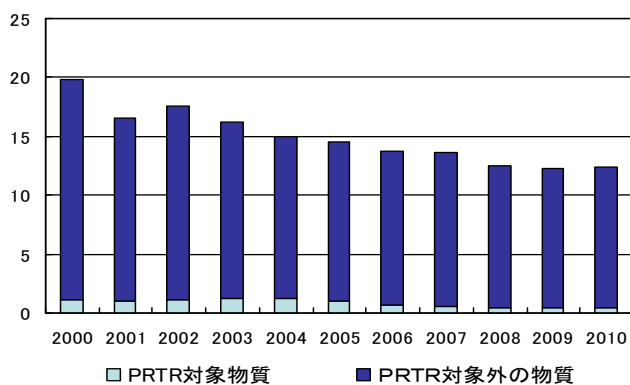
水の使用量(単位:千m<sup>3</sup>)



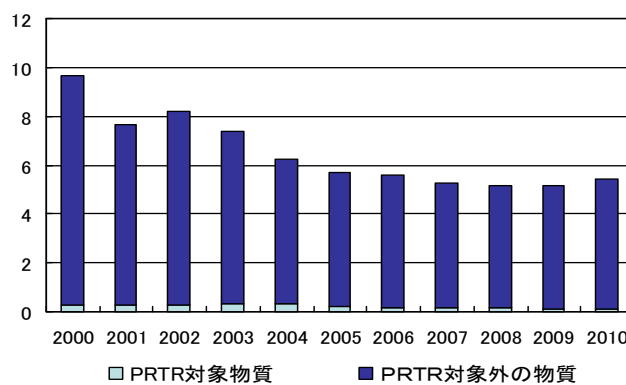
排水量(単位:千m<sup>3</sup>)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質: イソプロピルアルコール、アセトン、硝酸、硫酸、塩酸

**遵法管理状況**

<大気測定結果> 小型貫流ボイラー(重油使用) 2台

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	—	120	40~97	年4回
SOx(k値)	14.5(栃木県条例)	5.8	0.12~0.34	年4回
ばいじん(g/Nm3)	—	0.5	0.02未満	年4回

<排水測定結果> 最終放流口、河川(箒川)へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(協定値)	6.4~7.6	7.1~7.4	月1回
BOD(mg/ℓ)	10(協定値)	6.7	0.8~4.1	月1回
COD(mg/ℓ)	—	—	—	—
SS(mg/ℓ)	30(協定値)	8.8	0.1~3.8	月1回
窒素(mg/ℓ)	—	—	29	期1回
フッ素(mg/ℓ)	8(栃木県条例)	4	0.2未満	月1回

<騒音・振動測定結果> 特定施設 コンプレッサー、送風機、冷却塔他

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	70	65	44	年1回
	敷地境界:夜	55	50	42	年1回
振動(dB)	敷地境界:昼	55	45	30以下	年1回
	敷地境界:夜	50	45	30以下	年1回

<その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)				
BOD(mg/ℓ)		事業所の排水は公共用水域に排水するため下水道法対象外		
SS(mg/ℓ)				

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし